

有機フッ素化合物（PFOS、PFOA）について

①PFOS、PFOA※¹とは何？

有機フッ素化合物の一部である「PFAS」は、1万種類以上の物質があるとされ、代表例としてPFOS、PFOAがあり、水や油をはじいたり、熱に強い性質があることから、泡消火薬剤、フッ素ポリマー加工助剤など幅広い用途で使用されてきましたが、これらの物質は分解しにくいことから環境中での蓄積性が指摘されています。

※1 PFOS：ペルフルオロオクタンスルホン酸、PFOA：ペルフルオロオクタン酸

②人の健康への影響は？

国内において、PFOS、PFOAによる健康被害が発生したという事例は令和5年時点でありませんが、国では、最新の科学的知見に基づき、人の健康への影響に係る判断基準について、専門家による検討が進められています。

③水道水における基準は？

国では、体重50kgの人が水道水を生涯、毎日2L飲用したとしても健康に悪影響が生じないとして、令和2年にPFOSとPFOAを合算したものの暫定目標値を50ng/L※²として設定しています。

※2 ng/L（ナノグラム・パー・リットル）とは、水1リットル中10億分の1グラムの物質が溶けていること＝エスコンフィールドの容積（約124万m³）に約1.24g含まれているときの濃度

④水道水における測定は？

PFOS、PFOAはこれまで、水道法により「1年に1回測定することが望ましい項目」とされていましたが、令和5年10月の国からの通知により、水道事業者等に対し、「水道原水または送水について少なくとも1回は水質検査を実施し、濃度の把握に努める」とこととされたところです。

⑤石狩東部広域水道企業団での検査結果は？

当企業団では、水道水の安全性の確保に万全を期するため、令和2年以降、毎年1回、原水及び送水中の濃度測定を行っています。測定結果は、暫定目標値を大幅に下回る5ng/L未満であり、これまで一度も検出していません。引き続き水道水を安心して飲用いただけます。

	PFOS・PFOAの合計値（暫定目標値：50ng/L）					
採水場所	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
漁川浄水場 原水	5ng/L未満	5ng/L未満	5ng/L未満	5ng/L未満	5ng/L未満	5ng/L未満
漁川浄水場 送水	5ng/L未満	5ng/L未満	5ng/L未満	5ng/L未満	5ng/L未満	5ng/L未満
千歳川浄水場 原水	5ng/L未満	5ng/L未満	5ng/L未満	5ng/L未満	5ng/L未満	5ng/L未満
千歳川浄水場 送水	5ng/L未満	5ng/L未満	5ng/L未満	5ng/L未満	5ng/L未満	5ng/L未満